

信州型自然保育認定・登録制度の「基準」について

(事務局素案)

平成26年9月10日

団体基礎情報 . . . 全申請団体共通

認定・登録ともに、申請書類に以下の「団体基礎情報」を記載する。

- ① 団体概要（名称、所在地、代表者、設立年月、電話番号等連絡先ほかの属性）
- ② 運営概要（保育時間、職員構成、資格の有無、年齢ごとの園児数、利用料金ほか）

※ 認可外保育施設登録書式ほか参照

認定基準 . . . 認定申請の団体用 (★マークは認定基準のみに規定)

理念に関する基準

① 自然保育の基本理念を理解している

- ・ 団体として自然保育をどのようにとらえているか。
- ・ 自然体験含む多様な体験活動について、子どもの学びや成長の観点からどのようにとらえているか。
- ・ 保育や幼児教育の中で、「体験型」、「地域一体型」、「幼保小一貫型」といった実践のあり方をどのように意識しているか。 以上のような視点について記述することを想定

② 国の保育指針や幼稚園教育要領に基づいた実践をしている

以上の観点からどのような実践をしているか記述することを想定

③ 小学校との連携を大切にしている

- ・ 所属する園児について、個別に小学校との定期的な連絡を取っているか。
- ・ 日常的に小学校と連携活動があるか。 以上のような視点についてチェック項目を想定

④ 地域社会との連携を大切にしている ★

- ・ 他の保育団体との積極的な学びあいや交流の意思があるか。（具体的な交流内容）
- ・ 自治体や地域の様々な団体と意識的に関係を築いているか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

実践基盤に関する基準

⑤ 運営体制を整備している

- ・理事会、運営協議会、評議員会、保護者会など、運営についての意思決定機関を持っているか。(運営責任の所在について明記)
- ・実践課題の改善に取り組んでいるか。(PDCA:計画、実行、評価、改善の取り組み)
- ・実践に関する継続的な計画(年間、月間、週間計画など)を立てているか。

以上のような視点についてチェック項目を想定

⑥ 団体運営の維持に努力している ★

- ・運営の安定性・健全性を確保するための運営方針および体制が整備されているか。
- ・自然保育の安定的な提供に努力しているか。
- ・運営状態における問題や課題に対してどのように対応し解決しているか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

⑦ 安全管理の体制を整備している

- ・緊急時における子どもの命の安全について配慮されているか。
(例) 悪天候時の避難施設を確保しているか。
事故発生時の医薬品やAED、エピペン等を常備しているか。
救命救急等の研修を実施しているか。(公的な研修等の受講の有無なども)
警察や消防署、病院、保護者、行政等との連絡体制を確保しているか。
保険(傷害および損害賠償)に加入しているか。
- ・子どもたちの健康把握が日常的になされているか。(登園時および降園時等)
- ・体験活動の際のヒヤリハット等の蓄積と共有や事前研修がされているか。
(例) 感染症や食中毒等の予防および野生動植物等へのリスク対応ができているか。
- ・子ども自身が自分の安全に配慮できるような指導をしているか。
- ・職員や保護者間で安全に関する意識や事故等発生時の対応が共有されているか。
- ・医療機関との日常的な連携ができているか。(かかりつけ医など)
- ・危機管理の指針、マニュアルが整備されているか。
- ・危機管理上の職員体制 訓練が実施されているか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

⑧ 情報開示および個人情報保護の仕組みを整備している

- ・人権への配慮と法令遵守を宣言しているか。
- ・公開が義務づけられている情報(認定申請書および活動報告書含む)の開示方法が具体的に示されているか。(団体パンフレットやホームページ等を整備している)
- ・団体のホームページでの掲載のみならず、書類等が常に閲覧できるよう団体の施設内に設置されているか。
- ・個人情報保護の具体的な対応について開示されているか。

(例) 個人情報保護方針（プライバシーポリシー）や個人情報保護規程を有し、団体として適正に収集した個人情報が適正に管理され、漏えい等の発生にも速やかに対応できる仕組みがある。

- ・職員及び子どもの状況を明らかにする帳簿等を整備しているか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

⑨ 設備環境を整備している ★

- ・子どもの体験活動を効果的に実践するための設備や道具等が整備されているか。

(例) 子どもの目線や立場から野外体験等への動機づけが可能となる工夫がされている。

- ・子どもの心身の安心や安全を保持するための設備環境が配慮されているか。

(例) 活動フィールド内に屋根のある設備を確保している。

子どもが個別に休養できる休憩室などのようなスペースを確保している。

以上のような視点についてチェック項目を想定

実践内容に関する基準

⑩ 活動フィールドについて説明できる

- ・多様な自然体験等に対応するために、具体的にどのようなフィールド（森、川、里山、畑等）が確保されているか。

以上の観点からどのような実践をしているか記述することを想定

⑪ 体験活動について説明できる（計画的に実施する屋外での活動を具体的に記載）

- ・自然と向き合う体験活動を計画的に実践しているか。
- ・自然環境を活用した学びのプログラムを設定しているか。（遊びや創作活動含む）
- ・自然体験以外に農作業や食育など多様な生活体験プログラムを実践しているか。
- ・子どもの年齢に応じたプログラムや、異年齢集団でのプログラムが設定されているか。
（未満児に対する配慮がなされている）
- ・地域と連携した活動をしているか。（伝統行事、食育等への参加含む）
- ・幼保小連携を意識した活動をしているか。（小学校等の参加の有無についても触れる）

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

⑫ 計画的に実施する屋外活動時間の総量が、幼児一人につき年間 540 時間を越えている。

（屋外活動の例については⑪の項で具体的に記す。活動時間数は年齢別に配慮）★

屋外活動として申請書に記載された個別活動の計画時間数を総計する

⑬ 理念の実現および体験活動に対して評価する仕組みがある ★

- ・実践記録を残しているか。
- ・団体が掲げた基本理念の実現に向けて、どのようなステップで努力しているか。
- ・自然体験が子どもに及ぼす効果や影響について評価できる仕組みがあるか。

- ・子どもの知力、体力、自主性、社会性、自己肯定感等の向上などの観点から、実際どのような評価結果が出ているか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

⑭ 保護者との連携を大切にしている ★

- ・保護者が体験活動に参加しているか。
- ・保護者が体験活動に関わる際の課題等を団体として認識しているか。
- ・保護者の理解を促進するために工夫をしているか。
- ・保護者への支援（相談等）のノウハウと体制を持っているか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

保育者（職員）に関する基準

⑮ 保育者（職員）の体制および資質や経験について説明できる

- ・保育に従事する職員数および保育士や幼稚園教諭等の有資格者の人数が、国が定めた基準を下回っていないか。

（例）3名以上20名程度のグループ単位で活動し、1グループにつき2名以上の職員を配置する（15名を超えるグループの場合には、3名以上の職員を配置するなど、必要に応じた適切な職員配置に配慮する）。保育士又は幼稚園教諭の資格を有する者の配置人数にグループ数を除した人数が1人以上である。（鳥取県基準）

- ・保育者（職員）それぞれの保育経験年数と研修会等の受講経歴について。
- ・野外活動等の指導資格等の有無や野外活動に関する研修会等の受講経歴について。
- ・安定的な活動に必要な職員を配置しているか。（保健や食事について配慮した体制か）

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

⑯ 保育者（職員）の資質向上に努力している ★

- ・保育者が自然体験したり、保育経験やノウハウの共有等を目的に、団体として定期的に研修やミーティングを実施しているか。（保護者参加も可）
- ・他団体が主催する研修会や交流会等への参加や、講師、研究発表等の経験があるか。
- ・消防署等が実施する「救命救急講習」等に参加した（予定含む）職員がいるか。
- ・相談など、団体として保育者を支援する仕組みがあるか。
- ・当制度に位置づけられた研修会や交流会に保育者（職員）が年1回以上参加できるか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

理念に関する基準**① 自然保育の基本理念を理解している**

- ・団体として自然保育をどのようにとらえているか。
- ・自然体験含む多様な体験活動について、子どもの学びや成長の観点からどのようにとらえているか。
- ・保育や幼児教育の中で、「体験型」、「地域一体型」、「幼保小一貫型」といった実践のあり方をどのように意識しているか。 以上のような視点について記述することを想定

② 国の保育指針や幼稚園教育要領に基づいた実践をしている

以上の観点からどのような実践をしているか記述することを想定

③ 小学校との連携を大切にしている

- ・所属する園児について、個別に小学校との定期的な連絡を取っているか。
- ・日常的に小学校と連携活動があるか。 以上のような視点についてチェック項目を想定

実践基盤に関する基準**④ 運営体制を整備している**

- ・理事会、運営協議会、評議員会、保護者会など、運営についての意思決定機関を持っているか。（運営責任の所在について明記）
- ・実践課題の改善に取り組んでいるか。（P D C A：計画、実行、評価、改善の取り組み）
- ・実践に関する継続的な計画（年間、月間、週間計画など）を立てているか。

以上のような視点についてチェック項目を想定

⑤ 安全管理の体制を整備している

- ・緊急時における子どもの命の安全について配慮されているか。
（例）悪天候時の避難施設を確保しているか。
事故発生時の医薬品やA E D、エピペン等を常備しているか。
救命救急等の研修を実施しているか。（公的な研修等の受講の有無なども）
警察や消防署、病院、保護者、行政等との連絡体制を確保しているか。
保険（傷害および損害賠償）に加入しているか。
- ・子どもたちの健康把握が日常的になされているか。（登園時および降園時等）
- ・体験活動の際のヒヤリハット等の蓄積と共有や事前研修がされているか。

(例) 感染症や食中毒等の予防および野生動植物等へのリスク対応ができていますか。

- ・子ども自身が自分の安全に配慮できるような指導をしているか。
- ・職員や保護者間で安全に関する意識や事故等発生時の対応が共有されているか。
- ・医療機関との日常的な連携ができていますか。(かかりつけ医など)
- ・危機管理の指針、マニュアルが整備されているか。
- ・危機管理上の職員体制 訓練が実施されているか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

⑥ 情報開示および個人情報保護の仕組みを整備している

- ・人権への配慮と法令遵守を宣言しているか。
- ・公開が義務づけられている情報（認定申請書および活動報告書含む）の開示方法が具体的に示されているか。(団体パンフレットやホームページ等を整備している)
- ・団体のホームページでの掲載のみならず、書類等が常に閲覧できるよう団体の施設内に設置されているか。
- ・個人情報保護の具体的な対応について開示されているか。

(例) 個人情報保護方針（プライバシーポリシー）や個人情報保護規程を有し、団体として適正に収集した個人情報が適正に管理され、漏えい等の発生にも速やかに対応できる仕組みがある。

- ・職員及び子どもの状況を明らかにする帳簿等を整備しているか。

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

実践内容に関する基準

⑦ 活動フィールドについて説明できる

- ・多様な自然体験等に対応するために、具体的にどのようなフィールド（森、川、里山、畑等）が確保されているか。

以上の観点からどのような実践をしているか記述することを想定

⑧ 体験活動について説明できる

- ・自然と向き合う体験活動を計画的に実践しているか。
- ・自然環境を活用した学びのプログラムを設定しているか。(遊びや創作活動含む)
- ・自然体験以外に農作業や食育など多様な生活体験プログラムを実践しているか。
- ・子どもの年齢に応じたプログラムや、異年齢集団でのプログラムが設定されているか。
(未満児に対する配慮がなされている)
- ・地域と連携した活動をしているか。(伝統行事、食育等への参加含む)
- ・幼保小連携を意識した活動をしているか。(小学校等の参加の有無についても触れる)

以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定

保育者（職員）に関する基準

⑨ 保育者（職員）の体制および資質や経験について説明できる

- ・ 保育に従事する職員数および保育士や幼稚園教諭等の有資格者の人数が、国が定めた基準を下回っていないか。

(例) 3名以上20名程度のグループ単位で活動し、1グループにつき2名以上の職員を配置する（15名を超えるグループの場合には、3名以上の職員を配置するなど、必要に応じた適切な職員配置に配慮する）。保育士又は幼稚園教諭の資格を有する者の配置人数にグループ数を除した人数が1人以上である。(鳥取県基準)

- ・ 保育者（職員）それぞれの保育経験年数と研修会等の受講経歴について。
- ・ 野外活動等の指導資格等の有無や野外活動に関する研修会等の受講経歴について。
- ・ 安定的な活動に必要な職員を配置しているか。（保健や食事について配慮した体制か）
以上のような視点についてチェック項目および記述することを想定